

自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る子供を育む学校教育の推進

～確かな学びとしなやかな心を礎に 未来に向かって共に挑戦する子供を育む学校経営～

〈研究主題の趣旨〉

本会は昭和49年の発足当時より、北海道をふるさととして生きる子供たちのための、よりよい学校経営を目指し脈々と研修や研究を重ねてきた。特に小・中・特別支援学校という校種を超えて視野を広げ、児童生徒の学びの連続性や多様性に対応してきたことは大きな成果である。このことが認められ、本会が発展を遂げていることに誇りをもつとともに、更なる資質および職能の向上に努め、義務教育の充実・発展に寄与していくものである。

今日、情報化やグローバル化等の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく、また急速に変化しており、将来の予測が困難な時代となっている。このような状況の中で、持続可能な社会の担い手となる子供たちに、互いに支え合いながら未来を切り拓き、共によりよい社会を創る力を育むことは時代の要請であり教育の使命でもある。

一方、学校教育における諸課題は一層複雑化、多様化している。そのために確固たる学校経営ビジョンに基づき、「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」の育成を通した「生きる力」を育む教育活動と、家庭や地域社会、関係諸機関との連携により創意と活力に満ちた信頼される学校づくりが求められている。学習指導要領の理念である「生きる力」を育むためには、子供たちの自立した確かな学びを醸成することが喫緊の課題である。そのためには、基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な他者との協働を促す教育の充実に努める。さらには、組織的な取組によって、それらの実効性を高めていくことが肝要である。

また、未来に向かってたゆまぬ挑戦を続け、自ら未来を切り拓くためには、少々の揺さぶりではぐらつかない心の強靭さや精神的な回復力（レジリエンス）、柔軟に考え対応することのできる「しなやかな心」を育むことも必要である。このような、どんな場面でも対応していける心のモチようは、他者と協働していく時代には必要不可欠であると考え。社会の担い手となる子供たちにとって、学校教育は、豊かな体験活動や集団活動を通して、友達や多様な他者と力を合わせ共に挑戦する意欲や態度を育むことができる大切な場である。自ら未来を切り拓き、他者とつながり、共に挑戦しようとするたくましさや強さをもつ子供を育む学校経営を大事にしていきたいと考える。

このことから研究主題を「自ら未来を切り拓き 共によりよい社会を創る子供を育む学校教育の推進」とし、副主題を「確かな学びとしなやかな心を礎に 未来に向かって共に挑戦する子供を育む学校経営」と設定した。家庭や地域社会、関係機関等との連携・協力を密にし、方向性を確立した取組によって学校経営の在り方を追究していくことが社会の要請に応える方策であると考え。

また、本会では男女共同参画社会の推進に果たす役割の重要性を受け止め、これまで継承している「共に」を深く認識し実践していく。私たちが真摯に研鑽を積み、職場で協働して職責を果たし、学校経営を推進していくことは女性管理職ばかりではなく時代を担う女性教師の活躍の場を広げることに他ならない。今後も、一人一人が個性と能力を十分に発揮し、北海道民の負託に応える学校経営の具現化に努めていくものである。